NPO法人チャリティーサンタ
Charity Santa

2020年度
ルドルフ基金
実施報告書

困難な家庭に思い出を届けるプロジェクト
コロナ禍に子どもたちに愛された記憶を残したい

AGENDA

01 はじめに
02 実績報告 ~数字でみる実績~
03 家庭の声
04 コロナ禍での家庭の声~オンライン訪問とは~
05 企業インタビューwith ロクシタンさん
06 編集後記

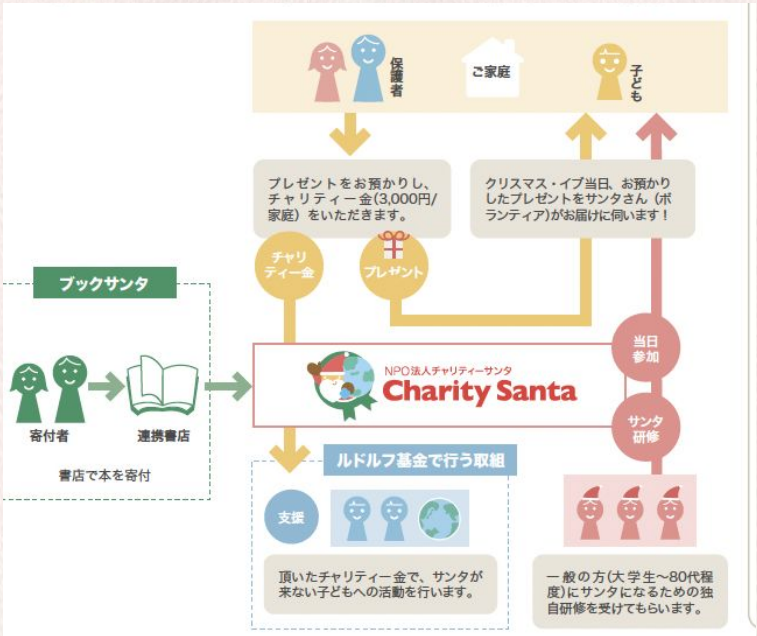
01 はじめに ~ごあいさつ~

NPO法人チャリティーサンタ代表理事　清輔 夏輝

2020年は、社会全体がそうだったようにチャリティーサンタにとっても大きな変化の波が押し寄せた年になりました。困窮家庭からの希望数は、例年の2倍以上になり、さらに外部の子ども支援団体からも多くの連携を希望する声が届きました。最終的には100以上の団体と手を取り合い、1万人を超える子どもたちへ支援を届けることができました。これまで対面の活動だったものがオンラインでも実施するような工夫も行いました。「オンラインでサンタ・・・？」という一抹の不安もありましたが、多くのメンバーと考えた演出などにより、保護者からの満足度は対面と遜色ない数値となりました。今後も変わらず変化が必要になってくるかと思いますが、私達はどんな荒波にもしなやかに対応し「子どもたちに愛された記憶を届けること」を心の真ん中に置いて活動していきます。

ルドルフ基金担当理事　河津 泉

2020年は新型コロナの影響もあり、子どもたちにとって思い出不足な一年でした。行事がなくなり、夏休みも短くなり、おでかけの機会も減り…。困難な家庭の多くは家計にも影響を受け、そのしんどさからより一層思い出が不足し、親子ともにしんどさが募る声が沢山届きました。子どものいる家庭に取っては一大イベントであるクリスマスも困窮していると歯を食いしばりながら、時には諦めながら迎えることになってしまうのです。どんな家庭にも幸せな思い出を届けたい。私たちのチャリティーサンタのサンタクロース訪問活動は「大人数で密にならず個々のおうちに思い出を届ける」形だと思っています。アウトリーチの形で届けることができる、スペシャルな思い出です。多くの工夫を行いながら、家族の幸せな思い出を願って活動した一年をご覧いただければ幸いです。



厳しい環境の中にある子どもたちに対して、寄付を集め、子ども時代の心に残る思い出支援を行う「ルドルフ基金プロジェクト」を行っています。

また、　ルドルフ基金プロジェクトで子どもたちに届けるプレゼントの一つとして、
絵本や児童書を「ブックサンタ」という取組で集めています。全国の連携書
店で寄付者が選んだ絵本や児童書がチャリティーサンタに届き、サンタクロースからの贈り物としてクリスマスに届けています。

詳しくは、こちらのリンクの動画をぜひご覧になってください。
https://youtu.be/SGMyoXwEj8E

02 ルドルフ実績報告

2020年度ルドルフ基金活動の 特徴

2020年度は、みんなにとって「辛抱の一年」でした。コロナが影響した失業など、これまで以上に苦しい生活を強いられた困窮家庭は数多くあります。また、運営スタッフ側も、従来通りの対面での活動が難しく、訪問するかどうかの難しい選択を各支部は迫られました。実際に札幌、香川、広島の三支部は、様々な事情を考慮して訪問を断念するという苦渋の決断をせざる負えない状況でした。しかし、この一年間たくさんの我慢をさせてしまったから、せめてクリスマスには子供を喜ばせてあげたい、という親御さんからの強い願いがチャリティーサンタにこれまで以上に多く届きました。そんなご家庭からの願いを受け、大変な年だからこそ一軒でも多くのご家庭にクリスマスの思い出を届けるべきだ、と試行錯誤を重ね2020年度ならではのやり方を探って活動を続けました。その結果、様々な努力と工夫もあり、ルドルフ基金の活動は無事にイブを終えることが出来ました。

2020年度寄付金総額 20,833,762円
（内、ルドルフ基金寄付 11,340,072円）

～数字で見る2020年度～

困窮家庭申込数

395家庭
（前年比＋184家庭）

困窮家庭の子ども数

662人
（前年比+305人）

ブックサンタの冊数

20,376冊
（前年比＋14,365冊）

オンライン訪問数

46件
（一般家庭オンライン訪問30件）

施設などのパーティ訪問数

16件
（前年比±0件）

施設などのパーティ訪問 子供数

340人
（前年比―30人）

またルドルフ基金では様々な団体との連携、企業連携を通じての活動を行っています。
詳細は「サンタ新聞」からご覧ください。

03 家庭の声

2020、コロナの年・・・
「貴方はどうして
サンタクロースを
呼びましたか？」

困窮世帯からの応募動機を見てみると、コロナに夜経済的な不安が多く寄せられました。
またその他にもサンタ訪問に対しての願いや想いも寄せられました。

●経済的理由

コロナで収入が去年の半分位になりXmasにおもちゃは子供達全員には無理なので、お兄ちゃん、お姉ちゃんには我慢してもらいまた5歳の末っ子に絵本のプレゼントを考えていました。
もし頂けるならまだサンタさんを信じている6年生の娘にもプレゼントがあげられると想い応募させて頂きました。

先月突然仕事が無くなり、年末に向けてお金もかかるのに何もお祝いできないと不安

辛い日々を過ごしておりますが、コロナの為、それはみんな同じ事！とは思いながら、周りのご家庭では旅行や外食を普通にしているのを目の当たりにする度に、情けない気持ちでおりました。
正直、クリスマスしんどいなぁと思っておりましたが、この様な温かいお気遣いをして頂き、本当に救われる想いです。

●サンタへの願い

母親以外の人、世界の人に愛されてるのだ。ということをこども自身に体験してほしい

普段気持ちに余裕がなくなって、少しでも子供達に幸せな気持ちをもつ時間を与えたいと思って応募しました。あなたは多くの人から愛されているということを実感してほしいです。

今年はコロナでいつも以上に我慢させてしまった
子ども達へ頑張った事へのご褒美として、
少しでも素敵な思い出を作ってあげたい。

子どもたちへのプレゼントが終わると、なんと！親にもプレゼントが！！！もらえるとは思っていないので本当にうれしかったです。またサンタさんは子どもたちからお母さんへ渡すようにと子どもたちにプレゼントを持たせました。子どもの手から親にプレゼントということに関して、うちはお小遣いも渡せない家庭なので子どもが親に何かを買ってあげることは難しいです。でもサンタさんのおかげでプレゼントを渡すことができたことに特に娘は飛び跳ねて喜んでいました。サンタさんが次の子のところへ行くからと我が家を去ってからは、急いで包みをあけて中身を確認していました。息子は最近興味がある魚の図鑑に大喜び。娘は70超ページと大変読み応えのある絵本にドキドキ。しばらくお風呂に入るのも後回しにし本を読みふけっていました。翌25日、朝になりテーブルの上には昨日サンタさんからもらった絵本が置いてあるのを見て「やっぱり夢じゃなかった」と大変満足そうな子どもたちでした。

『サンタさん来た！！！』

サンタさん、
プレゼントありがとう！

昨日は夢のような素敵なお時間をありがとうございました。
ひとり親のチャリティーにてサンタさんに来ていただいた我が家です。
当日小一の息子にはサンタさんが来ることは内緒にしていたため、インターフォンが鳴りカメラを見て息子はビックリ！目をキラキラと輝かせて笑顔で玄関にかけていきました。
サポートスタッフさんにも来ていただいたお陰で、更に特別感が出て息子も私もドキドキでした。サンタさん、サポートスタッフさんの暖かな優しい笑顔、お声かけにとても感激しました。
そしてまさか私にまでプレゼントがあるなんて…(その際にもお話ししたのですが実はクリスマスイブである当日は私の誕生日なんです！)
息子からの『ありがとう』の言葉と一緒にプレゼントを渡す演出、
本当に涙が出そうなくらい嬉しかったです。
このようなご時世で色々な葛藤があったかと思います。
ですが我が家はサンタさん、サポートスタッフさんに
お会いしてとても幸せな笑顔溢れるクリスマスを過ごすことができました。感謝の気持ちで胸がいっぱいです。
本当にありがとうございました。

親子で温かい
気持ちになれた
クリスマスでした。

04 オンライン訪問

コロナ禍でリアル訪問が出来るのか不透明だったなか、今年度初の取り組みである「オンライン訪問」が実施されました。オンライン訪問数が全国支部でトップであった北東京支部のスピッツさんに、どんな想いで取り組んだのかをインタビューしました。

―リアル訪問との違いは何でしょう？

子供が主体となって、「ありがとう」がいえる状況を作れたのがオンラインで　よかった点です。サンタさんに「いつも君の事を大事にしてくれるお父さん、お母さんにありがとうって言ってみないかい？」って言われると子供たちはちゃんと言ってくれるんですよね。あとは、事前に自宅に隠してもらったプレゼントを宝探しみたいにワクワクと探してもらうことで、渡すだけでない参加型のイベントにすることが出来ました。

―なぜオンライン訪問をやろうと思いましたか？

少しでも訪問件数を増やすためです。　応募を開始した当初、ご家庭の応募件数が、ルドルフ家庭件数66件、一般家庭24件なのに対して当日ボランティアさんが22人と圧倒的に足りず、ルドルフ数に制限をかけなくてはいけない状況でした。しかし、コロナ禍で一番苦しい状況にあって、サンタの訪問に特にニーズがあるのがルドルフ家庭です。そのご家庭にプレゼントが届けられないのはどうなんだろうって。オンライン訪問を実施すればルドルフ家庭もまかなえるんじゃないかと思い、実施を決断しました。

―ルドルフ家庭のお子さんや親御さんの反応はどうでしたか？

思ってた以上の反応でした！　　リアル訪問よりも子供の喜び度が下がってしまうのかなという不安があったのですが、それと変わらないくらい、画面越しのサンタさんにお子さんは喜んでくれました。それに、そんな子供の様子を見て、嬉しさのあまり涙を流しているお母さんもいてとても感動的でした

オンライン訪問様子↓
（写真提供：南東京支部の皆様）

オンライン訪問の様子↑
（写真提供：南東京支部の皆様）

―今後の運営方針で、ルドルフ家庭に対する働きかけのツールとして、オンライン訪問をどう使っていくべきだと思いますか？

母子生活支援施設や、訪問対象外の地域への訪問が出来るのは、オンラインならではの強みだと思います。施設で暮らしているご家庭は複数家庭が入っているから、自分の一存では訪問をきめられません。そのため、サンタさんに来てほしくても呼びづらいy状況があります。そんな方々からはオンラインを歓迎する声が多かったです。

―オンライン訪問が今後も広がっていってほしいと思いますか？

ご家庭の需要を考えると、一番はやはりリアル訪問です。これをメインに目指していくことは、ご家庭のニーズに沿うための第一条件だと思います。
しかし、コロナ禍により先行きは不透明で、リアル訪問がしづらい状況はまだ続く事が考えられます、また、母子家庭や管轄地域外へのアプローチの手段として需要があるのがオンライン訪問です。そこには、継続的にやっていくべきではないかと思います。

―スピッツさん、貴重なお話をありがとうございました！

インタビューの様子↓
右上：米ちゃん　右下：やな
左上：リロ
左下：スピッツさん）

05 企業インタビュー

with L'OCCITANE EN PROVENCE

今回は、昨年ルドルフ基金の活動を行う上で、チャリティーサンタと一緒にお母さんへのプレゼント企画を一緒に行って下さったロクシタンジャポンの藤田さんと中原さんにお話を伺い、プロジェクトを行うまでの経緯やお2人にとってのサンタクロースとは何かを話していただきました。

Q.1 "みんなのスマイルツリープロジェクト"とはを行ったキッカケは何ですか？

「我慢の年」

藤田さん：2020年は、我慢が多かった年だからこそ、頑張った自分や大切な人にギフトを贈って笑顔を届けようという想いを込め、「今年はみんなサンタクロース」を合言葉にクリスマス限定サイト（ロクシタンサンタ村）を公開しました。

その中でチャリティーサンタとコラボさせていただいたのが「みんなのスマイルツリープロジェクト」です。

Instagramでロクシタンをフォローし、対象ハッシュタグをつけてロクシタンやクリスマスにまつわる写真を投稿していただき、投稿数に応じて、チャリティーサンタを通じて困難を抱える家庭にプレゼントをお届けするというものです。

ロクシタンサンタ村の中の1つのコンテンツとして、「チャリティー」という考え方をいかに参加者の方に見せていくかを、中原に相談しながら考えさせていただきました。

今まで基本的にオフラインイベントをメインでやっており、イベントをオンラインでやること 体が初の試みでした。コロナ禍で、出かけることもできない・人とも会えないという状況になり、そんな状況の中で、何ができるかということを考えたというのがこの企画を思いついたキッカケでした。我慢の多かった年だったので、"今年はみんなサンタクロース"をテーマに、プレゼント企画で本当に喜んでもらえるのか、内容もどのような感じにするのかを社内でも考えながら話しあいました。

「ワクワク感を大切に」

藤田さん：ギフトは気持ちや蓋を開ける時のワクワクが醍醐味だと思っているので、箱に入れて、カードを入れてプレゼント感を出すということを大切にしていました（写真①）。実際にプレゼントが届いたご家庭のコメントで、「ハッピーな気持ちになった、ワクワクした、涙が出た、これからも頑張ろうと思った」というお声を頂いて、この取り組みをしてよかったなと思いました。

写真①
実際のプレゼント

「身近なチャリティー」

藤田さん：ロクシタンが提供できる身近なチャリティーとは何かを考えていました。お金で寄付をすることもできますが、自分たちが持っているもの、例えば私たちならハンドクリームでチャリティーをすることで、ロクシタンのお客様にもちょっとしたことでチャリティーをすることを身近に感じていただきたいと思いました。また、ちょっとした行為や気持ちが、結果的にチャリティーに繋がっていたという経験をして頂けたらいいなと思っています。

「発信を通して様々な人に」

藤田さん：“誰かに少しでもハッピーになって貰いたい”という気持ちをSNSなどでも伝えられたらいいなと思っていました。今回のロクシタンのキャンペーンに賛同して、“こういう活動いいな”と思ってくださる人が増えていくだけでも嬉しいなと思っていました。

中原さん：実はこの企画でラッピングをしてくれたのは、弊社障害者雇用のチームの方たちでした。今回の企画の目的を伝えると、本当に目を輝かせて取り組んでくださりました。この企画は彼らにとっても、“自分たちの活動が子供たちやお母さんの喜びに繋がる”というギフトになりましたし、思いとか気持ちのギフトの和が広がっていったのかなと思っています。

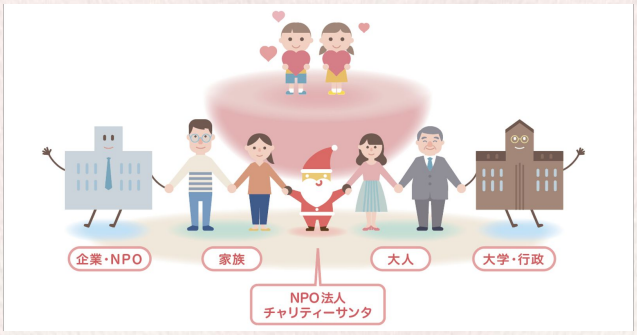
藤田さん：Instagramのキャンペーンでハッシュタグを通して、参加してくださった方・検索してくださった方にも想いが伝わればいいなと思います。

Q2　お2人にとって、「私にとってのサンタクロース」とは何ですか？

中原さん：自分自身でいいのかなと思っています。企画を通してプレゼントを受け取ったお母さんたちの感想に、「私にも貰えて嬉しかった。」というのがあったと思うのですが、日本人は“セルフラブ”という考え方が定着しておらず、自己肯定感がすごく低い傾向にあると思っています。男女関係なく、人に与えることもそうですが自分自身にもプレゼントをあげられるようになるのが大切なのではないかと思います！

藤田さん：周りの誰もがサンタになれますし、その人のことを思って何かできるということがサンタなのではないかと思っています。例えばクリスマスも、もともとは“気持ちを伝える”っていうところが一番なのではないかと思っています。プレゼントは+αで、例えばただなんとなくハンドクリームをプレゼントするのではなく、「水仕事してて手が荒れちゃうから使ってね」っていう気持ちを伝えるのがギフトの役割なんじゃないかと思っています。“サンタがプレゼントを持ってくる”だけではなく、気持ちを伝え合う時の1つのツールとしてプレゼントとがあるっていうことを、ギフトブランドとして伝えて行けたらいいなと思っています。

困難のなかにある子ども達に特別な思い出を



クリスマスは誰もが知っている特別な日です。
「誰もが知っている日」だからこそ、様々な人が関心をもつ・行動できるきっかけとなります。 一般市民のボランティア、企業や資源を持つ団体と 連携を通じながら、地域社会と「地域の見えにくいと ころで困っている子どもたち」がつながっていける仕組 みをつくること」これが私たちのできることなのではないかと考えています。
どんな環境にいても、すべての子どもたちが笑顔になれる1日を願い、賛同・連携してくださる方はぜひご連絡ください。

サンタになる

現在、サンタクロースの希望に対し、なり手（ボランティア）が不足をしています。
サンタクロースが増えれば、思い出を届ける先の子ども達も増えます。
全国の支部であなたのサンタクロースの参加をお待ちしています。

寄付に参加する

ルドルフ基金の取り組みを通じ、子どもたちの思い出を届けるための準備・仕組みづくりやプレゼントに使用させていただきます。
皆様の思いを形にし、子どもたちにサ思い出を届けます。

企業連携

チャリティーサンタでは企業の「子どもたちのために」を形にするお手伝いをしています。

●お問い合わせ●
rudolph@corp.charity-santa.com

編集後記

今回のルドルフレポートはチャリティーサンタに所属する学生インターン生により制作されました。以下はインターン生からのメッセージです。

1，なぜインターンに参加しようと思ったか　2，レポートを書いてみての感想　3，あなたにとってサンタクロースとは

1， 運営スタッフとして関わるようになってから、より詳しくチャリティーサンタの活動について理解を深めたいと思ったからです。自分が母子家庭で育ったということもあり、より多くの人にこの活動について知ってもらえたらいいなと思っていました。
2，訪問させていただいたご家庭の声がとても温かくて感動しました。また、自分の思っている以上に沢山の人や団体の協力があって成り立っているということを知ることができました。ルドルフ基金についてもっと多くの人に知ってもらえるように、またルドルフ家庭にこれからも思い出を届けられるように自分も努力し続けたいと思います！
3，どんな背景を持っていても関係なく全ての人を笑顔にすることができる人！
相模支部　米山綾乃(米ちゃん)

1，CSで活動するようになってから、より児童支援に興味を持つようになったからです。ご家庭のリアルを知り、活動への理解を深めたいと考え挑戦することに決めました。
2，レポート作成を通じて、「子供のために何かしたい」という親御さん達の強い想いを沢山拝見しました。この活動は、そんな想いを形にしてつなげるお手伝いをするためにあるのだと気づくことが出来ました。これからずっと関わっていきたい素敵な活動だなと改めて実感する機会になりました！貴重な経験をありがとうございます！
3、誰かのために何かしたいと思える人です。　横浜支部　髙柳涼子(やな)

1 大学3年生ということもあって今後どのような職に就きたいかを考えていたときに、ボランティアのようなものを仕事にしたいなと考えいたので、ルドルフインターンがピッタリだと思って応募しました！
2 少ししか書いていませんが、、興味範囲で始めていたので実績報告など実際に取り組んでみるとすごく責任感を徐々に感じ始め、緊張感持ちつつも、CSのルドルフの活動がより一層知れた機会だったのでとても楽しくできました！
3 私にとってサンタクロースは、(ここだけの話)父親像が強い方なのですが、それくらい小さい頃から心強くそばにいてくれて、クリスマスが特別好きだった私にとっては人生を楽しませてくれるおじさん！っていう感じでした笑
横浜支部
小渕真優美(リロ)